

グループ分け教材“Group Me!®”を開発する過程について

大谷 千恵 (玉川大学)

1. はじめに

グループをつくっての学習や活動は教育のあらゆる場面で見られる。また、近年、多様な児童生徒の増加に伴い、教室の中における人間関係づくりはますます重要になっている。しかし、仲間同士で固まりたがる学習者をバランス良くグループ分けすることは容易ではない。授業を受ける側にとって公平であり、なおかつ授業者の意図を反映できるグループ分けの方法は、多くの教育現場において大切と言える(大谷、船木、2013)。

グループ学習を基本とする協同学習の研究者達はグループ分けの重要性を指摘している(バークレイ・クロス・メジャー、2012、関田・安永、2005、Jacobs、Power、Inn、2002、Johnson、Johnson、Holubec、1993)。また、様々なグループ分けの方法やグループでの学び合いについても提案されている(バークレイ・クロス・メジャー、2012、関田、2007)。しかし、最初のグループをどうつくるかについては触れられていない(大谷、船木、2013)。

このような背景から、アイスブレイキングと関係づくりを目的としたグループ分け教材“Group Me!®”の開発を2012年から始めた。本実践発表では、これまでの実験や研究結果をどのように改善に繋げていったのか、開発の過程に焦点を当てる。

2. 教材“Group Me!®”の概要

“Group Me!®”は、10種類¹⁾の生き物と植物のカードが、それぞれ6枚1セットで箱に入っている。カードは、日本の小学校1-3年生の教科書に登場する生き物や植物を題材に、成長の一過程、あるいは一部を拡大した写真である。クラス替えのあった新学期や人間関係が固定化しつつある教室などで、2-5人

組のグループ分けとグループ学習の導入で活用することを目的に開発した教材である。

3. 第1回実験について

3.1. 第1回実験と結果

第1回目の実験は、2013年2月に川崎市の小学校の5年生62名を対象に実施した。“Group Me!®”とトランプでグループ分けした2つのクラスで実験授業を実施し、授業前後でクラスメイトについて紹介した記述を「内面・姿勢・態度に関わる記述」と「技能・特技・容姿に関する記述」に分けてを比較・分析した。

実験の結果、記述件数の増加度に差はなかったが、「内面・姿勢・態度に関わる記述」の増加度については1%水準で有意差が見られ、“Group Me!®”が相互理解を促進する教具としての有効性を確認した(大谷、船木、2013)。

3.2 考察と改善点

外国にルーツを持つ2名の児童がいたが、日本での生活経験が長かったため、支障なく実験授業に参加できた。しかし、日本での生活経験の少ないと、日本でよく見られる生き物や植物に馴染みがあるわけではないことが示唆された。また、各セットの代表的なカード1枚の裏面に、9ヶ国語(日本語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語)で生き物/植物の名前を印刷していたが、日本語指導を必要としている児童の母語が少ないことが確認された。

したがって、第2版は認定NPO法人「地球っ子教室」にもご協力いただき、タイ語、タガログ語、ベトナム語表記を追加した。また、“Group Me!®”を活用したグループ分けや

授業/活動案をホームページで共有できるようにした。

4. 第2回実験について

4.1 第2回実験と結果

第2回目の実験は、任意で参加した6名の小学校教員達が第1回目と同じ内容の授業を“Group Me!®”だけを使って2014年から2015年にかけて実施した。第2回目の実験は、使用者側の視点からの使いやすさを確認することを目的としていたので、3-6年の異なる学年で各教員が1回ずつ実施した。

実験の結果、勢いよく机の上に置かれると通常のラミネート加工は滑って落ちてしまうこと、また繰り返しの使用でカードが膨らんで収納しにくくなることが明らかとなった。プラスチックケースも破損しやすく、箱のストッパーの開け方がわかりにくいため、1年以内に4箱が破損や不具合が見つかった。

更に、漢字が苦手な児童には、既習範囲の漢字を使って書かれたカードのメッセージ文がスムーズに読めないことも確認された。

4.2. 考察と改善点

第2回実験では、教材としての耐久性や使いやすさの具体的な課題が明らかとなった。そこで、第3版は1箱の収容枚数を8セットに減らし、シリーズごとに収納できるようにした。箱もプラスチックケースからストッパーのないソフトケースに変更したので、落としても破損や不具合を防げるようになった。

また、すべての漢字にルビをふり、日本語指導を必要とする児童、漢字が苦手な児童、低学年にも使いやすくした。更に、外国人のALT教員からの問い合わせがあったので、日本語と英語の説明書を付けた。

5. 第3回実験に向けて

これまでの実験授業を通して、“Group Me!®”カードの準備・配布は、以下の方法を提

案する。①グループ数に応じて、生き物の種類を選ぶ。②選んだ種類のカードをグループの人数+1枚用意し、机などに1セットずつ並べる(並べた各種類の束から1枚ずつ順番にとっていくと、ランダムなカードのセットができる)。③配布は、バランスの良いグループ分けのために、いずれかジェンダーにカードを先に配っていく。④カード配布後、授業者の手元には、各グループのカードが1枚ずつ残るので、これらのカードを使って、授業でのグループの指名や児童の指名などに利用していく。

今後、第3版の“Group Me!®”の改善点の成果を確認していく予定である。

注)

1) 第1版は生き物・植物のカードが各10種類、120枚が1箱に入れてあった。

【引用文献】

- 大谷千恵・船木浩平 (2013)「学習者の相互理解や関係性構築に関する研究」『玉川大学教育学部紀要 論叢』玉川大学教育学部、pp. 13-24
- 関田一彦・安永悟 (2005)「協同学習の定義と関連用語の整理」『協同と教育第1号』日本協同教育学会、pp.10-19
- 関田一彦 (2007)『先生のためのアイデアブック 協同学習の基本原則とテクニック』日本協同教育学会
- エリザベス・バークレイ、パトリシア・クロス、クレア・メジャー、安永悟 監訳 (2012)『協同学習の技法』ナカニシヤ出版
- Jacobs, G.M, Power, M.A., Inn, L.W. (2002) *The Teacher's Sourcebook for Cooperative Learning : Practical techniques, basic principles, and frequently asked questions.* Corwin Press.
- Johnson, D.W., Johnson, R.T., Holubec, E.J. (1993). *Cooperation in the classroom (6th ed.)*. Edina, MN: Interaction Book Company.